

【今週の注目疾患】

【麻疹】

夏季休暇で海外に渡航する旅行者の増加に伴い、麻疹の輸入例発生に注意する必要がある。旅行先として渡航者の多いアジアの国々には麻疹の発生がまだまだ多くみられる国が多く、また現在はヨーロッパで麻疹の流行が報告されている。

2015年3月に日本は麻疹排除の認定を受け、現在は国内に麻疹ウイルスは定着していないが、排除認定以降も輸入例およびそれを発端とした国内感染例が認められている。2017年は第31週までに全国で169例の麻疹が報告されており、うち30例の推定感染地域が「国外」もしくは「国内または国外」となっており、その推定感染地域はインドネシア（14例）、イタリア（2例）、タイまたは国内（2例）等である（表1）。アジア地域からの輸入例の他、夏季は長期休暇による遠方への旅行も増えるため、現在麻疹の流行が報告されているヨーロッパにおける発生状況について記す。

欧州疾病対策センター（European Centre for Disease Prevention and Control ; ECDC）によると、2017年は現在までにラトビア、リヒテンシュタイン、マルタおよびノルウェーを除くEU/EEA内のすべての国・地域から麻疹の報告があり、ルーマニアでは6,486例（8月4日現在）、イタリア4,087例（8月8日現在）、ドイツ818例（8月9日現在）、フランス387例（7月31日現在）、ブルガリア166例（7月16日現在）、スペイン145例（7月25日現在）の報告があったとしている。新規症例やアウトブレイクの報告を認め、引き続き注意が必要な状況である。イギリス（イングランドとウェールズ）では962例の麻疹疑い例（医師による臨床的評価）が報告され、92例が麻疹と確定されている。死亡例はルーマニア20例、イタリア3例、ブルガリア、ドイツ、ポルトガルおよびフランスからそれぞれ1例が報告されている。

麻疹の予防には2回の麻疹含有ワクチンの接種が最も効果的である。また仮に帰国後2週間以内に発熱・発疹症状等の麻疹が疑われる症状が出現した場合は、医療機関での二次感染発生を防止するためにも、必ず事前に医療機関に電話連絡をした上で、指示に従い受診することが必要である。イタリアにおける麻疹では6.8%（277例）が医療従事者の症例であり、医療従事者の麻疹に対する備えも同様に重要である。

表1: 2017年第31週までに全国で届出られた麻疹(169例)における推定感染地域が「国外」及び「国内または国外」であった30例の推定感染地域

インドネシア	14
イタリア	2
タイ/国内	2
タイ/カンボジア	1
タイ/マレーシア	1
タイ	1
マレーシア	1
シンガポール	1
ベトナム	1
ミャンマー	1
インド/国内	1
パキスタン	1
ネパール	1
ニュージーランド	1
ガボン	1

国立感染症研究所 麻疹 発生動向調査による(2017/8/15)

参考・引用

国立感染症研究所 麻疹 発生動向調査（速報：2017/8/15）

<https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/measles/2017pdf/meas17-31.pdf>

European Centre for Disease Prevention and Control 麻疹関連トップページ

<https://ecdc.europa.eu/en/measles>